

日本山岳会 越後支部報

第 6 号

平成25年1月25日
発行 日本山岳会越後支部
発行者 山崎 幸和
新潟県燕市吉田大保町4-8
TEL・FAX 0256-93-2655
広報委員長 加藤 明文



私の一枚

杵差岳（えぶりさし）1636.4km

飯豊連峰の北端に位置し、連峰縦走の起点となっている。

古来から春の残雪形が農事歴として親しまれてきた。

昭和25年国立公園に指定され、昭和29年開催の第19回新潟国体会場として、全国に知られることとなった。

故 横山 征平（関川村）

年頭挨拶

「山の日」が制定されて

越後支部長 山崎 幸和

あけましておめでとうございます。
新年を迎え、会員皆さんの益々のご健勝をお祈り申し上げますと共に、これまでの越後支部へのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。

とりわけ、本会が公益社団法人となった昨春、その意義ある年内の十二月に発刊されました『越後山岳・第十二号』につきましては、全会員皆さんから格別のご理解ご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

支部活動も昨年から六部門の各専門委員会がようやく軌道に乗ってきました。支部報の年三回発行、機関誌十二号発行、数回の清掃登山と自然保護パトロール、県山協行事への協調参加、四支部交流登山と親睦登山の積極参加、そして支部会費納入の定着化、高頭祭と支部晩餐会に多数の参加をいただく等、計画通り推進されております。これも担当役員のご尽力と会員皆さんのご協力のおかげでありまして、改めて感謝申し上げます。

ところでこの度、大きな課題が浮上してきました。会報「山」第八一〇号でご存知の通り、日本山岳会、日本山岳協会、日本

山岳ガイド協会など五団体でつくる山の日制定協議会で「六月第一日曜を全国『山の日』に決定」が為され、近い将来「国民の祝日」を目指す方針が取決められた事です。既に、全国三十一府県では月日は異なるも

「山の日」や「山や森の日・月間」を制定し、当該の各支部、県岳連（県山協）、行政当局とで、森づくり、登山教室、ハイキングなど自然と親しむ各種行事が実施されておりますが、本県を含む十六都道府県は全く未検討、未実施の現状であります。

いよいよ全国統一日が決定したことにより、新潟県も全県あげての行事を検討しなければならぬ状況となりました。長期的に持続的に活動することが求められ、知恵を絞って企画立案、行動して欲しい、と要請されております。その為、新潟県山岳協会の阿部信一会長と、何を為すべきか、協議に入りましたが、皆さんからもご提案ご指導賜りたくお願い申し上げます。新年早々からお願い事で恐縮です。どうか本年が皆さんにとりまして良き年となりますよう祈念申し上げます、年頭の挨拶とさせていただきます。

山の紹介

会津 富士山 (五〇八・八m)

佐竹 信幸 (会津若松市)

今年の初夢はいかがでしたか。

一富士 二鷹 三茄子 四…御目出度
い中の一番目の、今回紹介する山の富士
山ですが、会津には二つの富士がありま
す。一つは会津富士の磐梯山です。(計測
の結果二〇一〇年に標高が一八一九mから
一八一六mになりました)さてもう一つ
は、正真正銘の富士山です。喜多方市の北
西、西会津町との境に位置し、高さこそ
五〇八・八mと、日本一から比べると低い
ものの山頂には富士権現の石祠と、三等三
角点があります。山頂からは、北に「飯豊
連峰」東に「磐梯山」と遠望出来ます。西、
南は杉の木が繁茂し、見えるはずの土埋山、
博士山は見えませんが、登山口へは、国道
四九号線と野尻から三三八号線で陣ヶ峯峠
に向かうのと、西会津町野沢から左に入り
尾登荻野、荻野漕艇場、立岩に向かう道路
があり登山道は二〇一二年に新設、立岩と
陣ヶ峯峠の中間に「富士山立岩登山口」の
真新しい標識が設置されています。新道が
出来たために今までの漆漕登山道から比べ
ると半分の三十分ほどで登ることが出来る

ようになりました。決まった駐車場はなく、
登山口付近に三台くらい停めることが出来
ます。
●富士山のエピソード●
二年前に支部会員の高橋宏さんと、還暦
登山ということで富士山(三七七六m)に
登りました。お互いに登り残していた日本
最高峰の山で、時期は、七月はじめの山開
き後で、登山者は列をなして数珠つなぎ状
でした。八合目から山頂までと下山道で
は「清掃登山」ゴミ袋二つ半の収穫、管理
事務所で引き受けてもらいました。山頂で
の到達感は最高でしたが、やはり遠くか
ら眺める
山と感
じました。
我が会
津の「富
士山」は
静かな
誰でも
登れる
優しい
山です。



立岩の麓からの富士山

〇「おめでやんじやござます」会員の朗報です

山崎支部長

二十四年度も越後支部から褒章受章と大臣表彰の荣誉に輝く会員がおります。誠に同慶の至りでありまして、心から祝意を申し上げます。

*環境大臣表彰受賞

七澤 恭四郎

No.11464 (上越市・自然保護功労)
「十一月の二十四年度自然公園全国大会(加賀白山)で七澤・支部委員が、永年に亘り妙高山など頸城三山を主とした上信越高原国立公園の自然保護と適正な利用に関し顕著な功績が認められ表彰されました。」

*藍綬褒章受章

加藤 明文

No.8058 (新潟市・自然保護功績)

「加藤・支部委員は、自然公園指導員として磐梯朝日国立公園を主に清掃登山に参加、また市民登山や市の生涯教育事業での自然解説や啓発の功績により受章」

新支部名誉会員に

土田幸雄支部元監事

平成二十四年十二月一日の支部役員会で土田幸雄・永年会員 (No.4241長岡市) が満場一致で越後支部名誉会員に推挙され、当日の支部年次晩餐会会場で公表された。土田・新支部名誉会員は四十年(一九六五―二〇〇五)もの長きに亘り支部委員・監事を務められ支部発展に貢献。特に新潟税務署長も歴任されたノーマウで公益法人化対応への支部会計指導や「天下之靈観」碑修復などにも尽力。平成十五年には勲四等瑞宝小綬章の叙勲の荣誉に浴されて

藤井 信

No.4468 (新潟市・生涯スポーツ功労)

「藤井・支部名誉会員は、高校教師当時から県山岳協会長歴任後の今日までの永年に亘り、青少年の安全登山とスポーツ登山の指導および健全育成に尽力された功績で、去る十月表彰されました。平成十八年には自然保護の功績でも藍綬褒章を受章されている。」

新潟県の峠道紹介③

明神峠

平成十六年十月二十三日十八時過ぎ、湯之谷村の伝之助小屋で、『明日、晴れますように』と乾杯をした直後、異様な空気の流れを感じると、もの凄い揺れに襲われた。中越地震である。

翌日、県山協婦人委員会主催の行事で、歴史街道『銀の道』を予定しており、七名が前泊をしていた。勿論行事は中止。翌年十月に実施させていただき、二年がかりの行事終了であった。

『銀の道』は、平安時代の末期に、尾瀬三郎房利が京を追われ、尾瀬へ逃げのびた道としての伝説があり、最高地点が一三三六米の明神峠である。銀山の歴史は一六四二年、銀の鉱石が発見されて、無人の原野が、最盛期には二万五千人もの人が働き、約千軒の家が建ち並び、鉱山の町として栄えた。一九六三年（昭和三十七年）、奥只見ダムの完成により、銀山湖に沈み、栄枯盛衰を歩んだにしえの道として残る。尾瀬三郎は一六六三年に銀山入山説があるという。

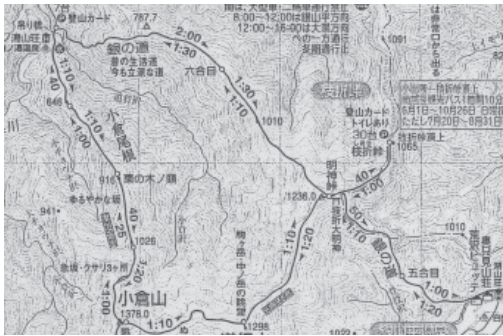
登山は銀山平からの一合目が『石抱』、駒ノ湯温泉近くからの一合目が『坂本』で、どちらから登り始めても、十合目が『大明神』となっている。一合目から十合目へ、一合目ごとに合計十九の一服の場とした謂

れある名称の標柱が在り、昔も今も一休みの目印となっているようである。

越後駒ヶ岳への登山路となっている枝折峠から小一時間の所に、越後駒ヶ岳への登山路と、銀の道への交差点があり、女性の神様と伝説のある枝折大明神が奉られている。女性の神様ということで、山を往き来る男性のあるものを差し向けると、荒れている山が静かになったということで、男性には特に情深かったのだとか。

『銀の道』は、銀山とともに栄え、銀山とともに廃道。閉山から百三十余年、現在も踏み固められた道跡を、地元の方々の整備のおかげで、栄えた当時を物語る『銀の道』として歩かれている。

全道を一回で歩くには、下山口へ車を回しておくとい。そうでないと、どちらか一方を明神峠より折り返しとなる。



山田 智子 (新潟市)

花つれづれ

アキノキリンソウ

越後を始め日本各地の高山帯にはミヤマアキノキリンソウが五頭山や米山などの低山にはアキノキリンソウが産する。高と低を分けた同属であるがどちらも母種はヨーロッパに産するエヒテ・ゴールドルーテ (独 *Echte goldrute* / 本物の金色の小枝) 学名 (*Silvira urea* / 若枝のある) でアキノキリンソウは *V. ssp. asiatica* (アジアの) で亜種になる。ミヤマの方は一種は *V. japonalp. estris* (日本アルプスの) で高山品種になる。

近年一、〇〇〇米〜一、五〇〇米あたりにどちらにもつかない中間型が出現して来ているが、これは高と低の雑種で人では禁じられた恋でも植物なら子供まで作っている。どちらが文化が進んでいるか？はそれぞれにおまかせする。

カナディアンロッキーマウンテンにも同属が産しロッキーマウンテン・ゴールドルーテと名乗るが親族関係は無い。いずれもアキノキリンソウ属で属学名は *Solidago* (金色)。



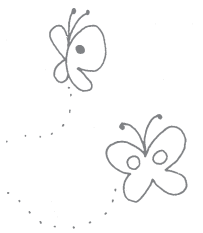
ヨーロッパアルプス (スイス) エヒテゴールドルーテ (母種) 葉は倒披針形



清水登川アキノキリンソウ 多くの枝が出て花がつく



飯豊山ミヤマアキノキリンソウ 花は頭部にだけつく



加藤 明文

山 靴

横山征平さん

本間 一人 (新潟市)

謹んで横山征平さんのご逝去をお悔やみ申し上げます。

あなた早く起きてと云う妻の声で、なんなんだ大きな声出してと云うと、大変だよ横山さんが事故で無くなったと新聞に出ているよ、と新聞を見せられた、どうしたんだろうと食い入るように何度も読み返した、本当だ大変だ関係者に連絡取ろうにも大変な騒ぎになっているので迷惑だろうと、受話器をとらず、じつと我慢していました、告別式には故人を偲んで大勢の岳人が参列しました、山岳関係者はもとより様々な関係者が参列し改めて様々な活動をされたことを思い出しています。

行政マンであつた横山さんは山でも、娑婆でも常に冷静沈着でそれでいて結構洒落も忘れないひとでした、私にとって人生の師の一人でした残念です。

横山さん、越後支部のニューウスに載せる(峠シリーズ)のに大里峠を書いてくれませんかとお願いと、いやーまた忙しくなるなーと云いながらも快く引き受けてくれてありがたかった、と云うものも地域の体や藤島文庫の整理や本場に忙しい方支部委員や両手で数えるほどの役職をお持ちの方でした。

横山さんとは中国ガンシカ峰遠征時二人で同じテント泊でした、葡萄鼻から大境山に残雪期に登りたいので偵察につきあつてくれねかねと同行をお願いして葡萄鼻山に

登つたのも二年前のことでした。

今度ね山岳協会で山の写真展をやるんさね、二、三点だしてくんねかね、とお願いと、いやーそんげない写真ねーわねと、云いながらも私の願いにおおじて出品くださった。

ありがとう横山さんあなたの訓え優しさはいつまでも私たちの心に、飯豊の山々に残っています、安らかに眠りください。

事務局連絡

一 平成二十四年度支部会費納入のお願い
今年度支部会費(¥一、〇〇〇)納入について、再々度お願いの通知を郵送いたしました、十二月末現在で十名の方がまだ未納となっております。支部活動の運営を円滑に進めるため、至急支部会費納入にご協力をお願いいたします。郵便局振込用紙をお送りしてありますが、紛失された方は別記の郵便振替口座に入金していただくようお願いいたします。尚、振込み手数料(¥一、二〇〇)は、各自でご負担願います。

郵便振込口座：0052016197779

公益社団法人日本山岳会越後支部(八月二日に振込口座名義を、社団法人日本山岳会越後支部↓公益社団法人日本山岳会越後支部に名義変更いたしました)が、従来の社団法人日本山岳会越後支部でも入金可能です。

二 「越後山岳(第十二号)代金納入のお願い

この度、五年ぶりに「越後山岳(第十二号)」が発行の運びとなりました。支部会員各位には、従来と同様に一人一冊のご購読の協力をお願いしております。十二月八

日の越後支部年次晩餐会に出席された会員には、直接お渡しして代金も受け取っておりますが、欠席された会員の方々は郵送させていただきます。ご購入代金(¥二、六〇〇)は、同封の郵便局振込用紙にてお支払いをお願いします。振込用紙を紛失された方は、別記郵便振替口座に入金をお願いします。尚、振込み手数料(¥一、二〇〇)は、各自でご負担願います。

郵便振込口座：0052016197779

公益社団法人日本山岳会越後支部
今回の発行部数が五〇〇部のため、在庫が少なくなっております。追加購読をご希望の方は、事務局までお申込み下さい。
申込先：
越後支部事務局 桐生 恒治
〒九五四一〇〇五二
見附市学校町一〇九一一九
TEL&FAX：〇二五八二一〇二四八
email：ecg@jac.or.jp

三 支部会員移動連絡

(二〇二二年八月一日、
二〇二二年十二月十五日現在)

(1) 物故会員

- ①横山 征平 (No.12270)
八/三十逝去

(2) 復活会員

- ①楡井 利幸 (No.9804)
会報「山」八月号にて復活入会確認

(3) 会友退会者

- ①齊藤 桂 (No.5911)
- ②田和 芳郎 (No.7666)

(4) 退会者確認漏れ

- ①小野塚忠男 (No.10542)

(5) 支部会員総数

二〇二二年十二月十五日現在
支部員総数二一七名、会友〇名

掲示板

◎越後山岳十二号、会員皆様の御協力により残部わずかになりました。ありがとうございました。

◎県山岳協会では年間を通して協会行事を行っております。支部会員も当然協会に加盟して行いますが行事参加者がほとんど居ないのが実情です。会員諸氏の参加協力をお願いいたします。

県山協委員長 目崎 貞良
〇二五八二一〇六七〇

編集後記

防災と云うとすぐラジオが非常食だと物が出てくるが、これはあくまでもその時に「生きている」と云う条件があつてこそ必要なものと思う。山も似たようなもので立派な装備や便利な用具など金さえ出せばすぐ手に入る。

これも生きていくからこそ利用出来るのであつてその前に寒さや疲労などで頭の回転が狂つてくると沢の流れも露天風呂に見える。

こうなる前に着たり食べたりしなければ……は皆承知……。一番かんたんで良いのは逃げるが勝の一手だと思ふ。

「私の一枚」は生前に横山さんより預りしたものです。(AK)